

令和5年度 第2回高知県環境審議会自然環境部会 議事録

日時：令和6年2月7日（水）13:30～16:00

場所：高知県立県民文化ホール 1F 第11多目的室

出席者：〔委員〕石川 慎吾（部会長）、佐藤 重穂（副部会長；オンライン）、時久 恵子、細川 公子、高橋 徹、吉澤 未来、岩瀬 文人、三谷 幸寛、森田 嘉代、柳原 栄二
（10名；敬称略）

〔事務局〕高知県林業振興・環境部副部長、自然共生課（2名）

〔受託者〕西日本科学技術研究所（4名）

1. 開会

- ・ 県林業振興・環境部西村副部長から挨拶
- ・ 出席委員、事務局の紹介
- ・ 審議の内容は、県で定める「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、ホームページで公開する。

2. 会議記録署名委員の指名

- ・ 会議記録署名委員については、細川委員、吉澤委員が部会長から指名された。

3. 議事

- | |
|---|
| 1) 生物多様性に関するアンケート調査について、西日本科学技術研究所から資料に基づき説明 ～説明を終えて、質疑応答～ |
|---|

石川部会長

ご説明ありがとうございました。それでは質問等ございましたらお願い致します。

時久委員

学校関係で、「どのような授業や取組を実施していますか」というところで、「公園や河川、海浜などの清掃」が少なく28%、「生物多様性に関する室内での学習」が28%、「自然や生きものをテーマにした環境」は41.5%、教室の中でできるようなことが少し多いかなと思いました。もう一つ感じたことですが、県庁の職員の方が、「担当課に要請したい支援は何ですか」について、「情報の提供」、「研修会や情報交換会の開催」という数値が高くなっています。その辺りが、今作成しているプランがとても重要で、読むだけでプランそのものの中身が非常によく分かることが書いてあります。これをいかに浸透させていくかですが、冊子等の配り方が重要だと思います。先生方にしても、研修などで冊子があれば全部書いてくれているので、とても重要なプランだと思います。

石川部会長

ありがとうございます。事務局いかがですか。

事務局（内田）

ご意見ありがとうございます。アンケートで回答いただいた職員も6割以上、7割近くが戦略自体を知らなかったということで、5年前のアンケート結果から変化がほとんど無く、庁内向けにも取組が浸透していなかったことが今回のアンケートで見えてきました。今回の部会でご報告させていただ

いたアンケート内容、改めてこうち戦略の取組というのを庁内で共有させていただいて、改定後も庁内向けに周知し、こういう取組を県庁でやっているということを関連部局以外にも伝えていきたいと思います。学校については、どう授業をすればいいのかわからないということについて、環境活動支援センターなどでフォローできるようなところもあります。まだまだ浸透していないことが見えてきたので、そこはこれから支援できますということを庁内や教育委員会にも幅広く周知して連携を深めていきたいと思います。

石川部会長

「戦略を知っているか」と「業務と関係があるか」の割合が、31～32%で完全に一致していますね。知っている、関連のあるところがほぼ一緒。県庁の方は関連のあることしか勉強しないのですかね。

事務局（内田）

自然共生課のPR不足もあったかと思います。今回の改定案では防災との関係も記載していますが、いろんな面で生物多様性が関わっていることを庁内でも周知していきたいと思います。

石川部会長

時久先生からあった、周知の仕方でも冊子体を配ることについて、予算の関係もあると思いますが、そういうことも検討されますか。

事務局（内田）

正式決定はまだなのですが、予算申請はしております。

西村副部長

デジタル化ということもありまして、今回の冊子は印刷もしますが、デジタルデータで共有することもできます。全部ではなく一部でもいいので、研修用の教材に使うこともできると思います。紙ベースは当然作りますが、活用しながら広く皆に使ってもらいたいです。農業、水産、それぞれ管理するところもございまして、そういう使い方をする中で県庁の職員にも広めていきたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

石川部会長

概要版は作りますよね。

事務局（内田）

デジタル化ということで、なかなか紙での印刷は難しいです。概要版のデータは作成しまして、各自で印刷いただくことにはなりますが、HPに掲載をして活用いただけるような形にします。そういったものも活用しながら普及・啓発に取り組んでいきたいと思います。

石川部会長

よろしくお願い致します。ほかに質問、ご意見ございますか。

岩瀬専門委員

県民の8割くらいは生物多様性について聞いたことがあるのかと思っていたのですが、相変わらず6割ちょっとということで、アンケート結果は結構ショックでした。以前部会長が、高校の生物の教科書に載っているから、高校生なら知っているはずだという話があったのですが、私が高校生という

いと話したときにほとんどが知りませんでした。生物の教科は選択科目で、たぶん文系の子はほとんど取っていない。特に理科離れが進んでいる今の時代、難しいのかなと少し思いました。ですが、できれば私どもとしても学校にもう少し食い込んでいきたいと考えています。子どもが知れば親も知りますので、その辺の良い知恵があればぜひ教えていただきたいと思います。

石川部会長

ありがとうございます。生物Ⅱですね。理系は3割くらいです。

事務局（内田）

検討していきたいです。庁内もですが、県民の方へのPRも、環境活動支援センターが体制としてはあるのですが、強化して取り組んで参りたいと思います。

事務局（宇久）

県庁でも、若い方々にいろいろ知ってもらいたいと思っているのでその辺は検討していきたいと考えています。

石川部会長

ありがとうございます。ほかにありますか。

少し私の方からよろしいですか。市町村の質問で、地域独自の生物多様性地域戦略を策定することについて、「何らかの補助があれば策定したい」が4件、「補助が無くてもいずれ策定したい」が1件でした。前回の会議のときにも、基礎自治体の地域戦略を策定してみてもどうかという議題を取り上げてもらったのですが、まだ時期尚早ということでした。この結果をみると、手を挙げそう、挙げているところを対象にして、今回の改定版には明記されていませんが、始めてみるはどうかと思いました。国家戦略もそうですが、高知県の地域戦略も目標や具体的な行動計画はあるのですが、きちっと場が特定されるような戦略はありません。それができるのが基礎自治体です。ここでこういうことをやるという戦略を立てられるんです。これは進めていくうえでもものすごく推進力があります。先進県の兵庫県も20件近い、10数件の自治体が具体的にやっています。成果も見えているという情報が頻繁に発信されていますので、高知県もぜひそれを目指したいですね。どうしても県全体の戦略だと、具体化がなかなか難しいので限りがあります。大月町、香美市など、有望な基礎自治体がありますので、ご検討いただけないでしょうか。

事務局（内田）

「補助があれば策定したい」4件、「補助が無くてもいずれ策定したい」1件について、今回アンケートの中でどこの市町村か確認しております。「補助があれば策定したい」が、須崎市、高知市、梶原町、土佐清水市。「補助が無くてもいずれ策定したい」が中土佐町になっておりまして、策定したいという意思はあるということです。こういったところで進んでいないかということはアンケートでは直接伺ってはいないのですが、策定に消極的な市町村については、「知識のある人材がない」「情報不足」ということが理由として挙げられています。やはり同じようなところで悩まれていると思いますが、実際にこういったところで悩まれているか、ヒアリングを行いまして、どんなサポートが出来るか考えたいと思います。本県は単体で計画を策定していますが、他県では環境基本計画の中に組み入れているところもあります。策定のイメージも併せてお伺いしたいと思います。

石川部会長

少し付け加えますと、「知識のある人材がない」が100%です。先進県である兵庫県の兵庫県立大学の教員が、「人と自然博物館」での役割も兼ねています。専門家がたくさんいるんです。積極的に

そういう人たちが関わっています。これは本当に必須なので、高知県でアドバイスできる人材がどれくらいいるか、調査から始めないといけないかと思います。県立大学が中心になるかとは思いますが、ほかにも NPO や調査会社の方などたくさんいらっしゃいますので、その辺をぜひお願い致します。

ほかにはいかがでしょうか。ちょうど予定の時間が来ていますので、もし何かあれば後でもけっこうですのでご意見いただきたいと思います。

それでは次の議題、生物多様性こうち戦略 2024 改定版（案）の作成について、事務局からご説明をお願い致します。

2) 生物多様性こうち戦略 2024 改定版（案）について、事務局から資料 2-2 に基づき説明
～説明を終えて、質疑応答～

事務局（内田）

資料 3 「はじめに」について、石川部会長からご説明をいただきたいと思います。

石川部会長

資料 3 の「はじめに」をご覧ください。資料 2-1 では赤字になっていますが、これは前回の内容になっています。資料 3 を読んでいただいて、気になることがあれば指摘していただくとありがたいと思います。内容は、10 年前に最初にこうち戦略を作ったときに、短期目標として「生物多様性の損失を止めるために、生物多様性に配慮した活動や利活用が定着しつつある社会」ということを 10 年後の目標として掲げましたが、なかなか上手くいっていません。日本全国を見渡してみても、なかなか上手くいっていません。新しい国家戦略の中では、ネイチャーポジティブ、自然再興という考え方が新たに提示され、それを達成するための一つの目標として 30by30 などが提示されているという動きを書いています。高知県でもそれを目指すというのが改定の中の一つの大きな目玉となっています。先ほどのアンケートにもありましたように、「自然共生サイトに登録する予定はありますか」について事業体で 5 件でした。そういう意欲があるところをバックアップして進めていくということが現実的だと思います。高知県の目標でもあります。高知県は全国的に見ても自然がかなり残っている方だと思うのですが、保護区域が 9% と少ないです。海域はもう少しありましたかね。

事務局（内田）

県内の保護区域は 9.9% という数値になっています。自然共生サイトで認定されているところがありますので、若干増えているとは思いますが、10% いくかいかないかということです。

石川部会長

それにしてもかなり頑張らないと達成は難しいかと思います。意見交換会の時に環境省の小林さんにご説明いただいたところ、自然共生サイトとして環境省が認定するハードルはそんなに高くないとのことでした。基本的に、根底にある考え方、環境省のスタンスは、意欲があるところはすぐ応援したい、だからどんどんやってくださいということで、すごく気が楽になりました。ただメリットがよく分からないとアンケートにありましたね。これは小林さんもまだ検討中だということで、はっきり言ってなかったですよ。その後、いろんな補助や情報知識の提供含めて金銭的な提供があるかどうかは一番難しいところですが、そういう情報を受けて具体的な動きになっていくのだと思います。ですから一番大きなところにこの内容を入れました。先ほど「生物多様性こうちプラン大賞」を説明していただきましたが、戦略を作ったことによって地域で地道に、すごく優れた活動をしている団体がけっこうたくさんいて、大賞をもらったチームのうち 2 つは、環境大臣賞、博報賞と、全国的な賞をもらっています。優れた取組があり、それを広めていくということは今回大きな目標の一つでもあります。そういうものをどんどん発掘してリーダーを増やし、お互いの交流を深めて、横につながり

を広げていけるようにという意味合いで書きました。ご意見をいただければ私の方で修正いたしますので、ぜひ忌憚のないご意見をよろしくお願い致します。

少し長丁場になり皆さんお疲れだと思います。今の説明の内容を把握する時間も必要かと思しますので、ここで 15:00 まで、休憩を 10 分取りたいと思います。

(休憩 10 分)

石川部会長

時間が来ましたので、部会を再開したいと思います。先ほど説明がありました資料 2-1、2-2、3 についてご意見、ご質問ありましたらお願い致します。先ほど時久先生も仰っていましたが、2 回の改定を経て 3 回目だといふ読みやすくなったというのが第一印象ですね。細かいところでも誤字脱字でも結構です。

細川委員

「第 1 部第 2 章 2-5」で久重地区の地域連携協議会などを汲み上げていただいたのはすごく良いと思います。活動している団体の URL のダイジェスト版が欲しいです。ペーパーだと見ないと思います。QR コードがあれば一番飛んでいきやすいし、誰でも参加できそうなところに飛んでいけたらすごくいいなと思います。

去年、岩瀬さんも関わっていただいた SSH (スーパーサイエンスハイスクール) の小津高校の生徒と、1 泊 2 日で土佐清水へ行きました。自然に興味のある生徒さんたちばかりかと思ったら、ほとんどがそうではありませんでした。スマホで検索するのが早く、紙では見ないけどスマホでは見ます。それからアンケートに答えたらプレゼントが貰えるというキャンペーンに参加するのが大好きで、皆盛り上がっていて、非常に興味を示していました。若い人たちはどんなことに興味があるか、興味があることでクイズをし、参加したらプレゼントが貰えるというようなものも取り入れて、ぜひ、誰が見てもパツといきたいところにいけるような感じで作っていただけたらと思います。

事務局 (内田)

QR コードなどでホームページに飛べるようにということですか。

細川委員

ホームページでいうと、久重地域連携協議会のホームページがあります。活動の催しの案内などもあり、春の七草なんか 200 人来るんです。私の観察会は 1 月 6 日に 20 人くらいでやりましたが、1 月 7 日は 200 人来ていました。

石川部会長

具体的にはこれ QR コード入れるんですか。

事務局 (内田)

QR コードや画面上で選択するとそのページへ飛べるというような工夫は考えたいと思います。

細川委員

それから 172 ページの防災植物のコラムについて、オオバコの写真がオオバコに見えないです。オオバコも身近だから入れているのだと思いますが、オオバコよりナズナをぜひ入れていただきたいです。ナズナは野草の中で一番カルシウムが多く、100g 中 290mg 入っています。江戸時代にはナズナ売りという職業があったくらいです。栄養的にも価値が高いし身近です。ナズナというのは観察

会をするときも、すごく人間と関わりが強い植物です。攪乱しないと次生えてきません。畑を一年耕作放棄すると全くなくなるんです。あんなに去年いっぱいあったのに、今年は全くないという、手を入れないと生きていけない植物なんです。環境に敏感な植物ですので、そういった意味でもぜひナズナを入れていただきたいと思います。

石川部会長

写真ありますよね？

西日本科学技術研究所

探してみます。

細川委員

どんなところにあるかという、造成したところなど一面に生えています。ですが、来年になったら全くなくなるんです。それから、防災植物としてすぐ使える植物に関しては、綺麗な水辺に生えているクレソンです。クレソンは水辺の植物で、少し上を除けておくとすぐ再生しますので、防災植物としては定期的に利用できる頻度が高くなります。余談なのですが、職業柄少し気になりました。

石川部会長

ちなみに、防災植物協会は、「豊かな環境づくり総合支援事業」からの補助金をもらって、HPが近々できるので、できればコラムにQRコードがあるといいかと思っています。

事務局（内田）

QRコードについては工夫します。

細川委員

それから今年、自然観察指導員連絡会は事務局になって、自然観察指導員の養成講座を10月に予定しています。費用がかかりますので、経済的にバックアップしてくださる事業者とか、そういったものも併せてぜひ協力をお願いしたいと思います。

石川部会長

それはこれには入れなくていいですか。

細川委員

これには入れなくていいです。そういった情報を「えこらぼ」などで発信しているのですが、募集しても集まらないということが困ります。そういったいろんな催しがあったときに、発信を受けとれるよう、上手く繋がるようにしていただきたいと思います。

石川部会長

「えこらぼ」に繋がるようなQRコードはありますか。

事務局（宇久）

ありますね。

岩瀬専門委員

QRコードですが、本編にももちろんあったらいいと思いますが、ぜひパンフレットにもたくさん

あるといいと思います。

細川委員

そうですね。

石川部会長

そうですね。その方が効果的ですね。できるだけたくさんあるといいですね。

ほかにかがででしょうか。

森田専門委員

細かいところなのですが、気になった表現がありました。70ページの取組 2-2(1) 生物多様性の普及・啓発を担う指導的人材の育成、①の終わりの方に、「生物多様性の裾野を広げるため」となっていますが、これは生物多様性の裾野を広げるのか、生物多様性を推進していく方々の裾野を広げるのか、どちらなのかなと思いました。人材のほうの裾野なのかなとは思っていますが、いい表現に変えていただけたらと思います。

もう一つ、79ページの農業の取組 4-2(1) ①「農地の集積や施設整備等に対し、支援を行います。」となっていますが、ほかの産業分野を見ると、だいたい「支援します。」で文章が終わっているので、できれば「整備等を支援します。」と、揃えられたほうが読んでいて読みやすいかと思います。

それと、これはここで言っても仕方ないかとは思いますが、モニタリングの新規就農者の目標が年間 320 人、目標達成が現状で 6 割台だったと思うのですが、人口が減っている中でなかなか大変だなと思いました。目標は下方修正はできないと思うのですが、なかなか厳しそうだなということです。あと、私も元県の職員で、こういう会に参加していなければ、(生物多様性に関する) アンケートを受けたら知らないと答えている 6 割の中の一人になっていたと思います。ですが、これだけ幅広い分野に影響があることなので、知らなくても関わっていないことは決してないと思います。だから、これが生物多様性の取組になりますという、やっていることから生物多様性に逆戻りしていくような、そういうことを意識・認識できる機会があれば、自分も生物多様性を知っているし、関わっていると言いやすくなると思います。そういう意味では事例集がとても分かりやすいです。知らない者にとってはこれも生物多様性の取組だと理解しやすいので、ぜひ事例を積極的に切り抜いて事例集を作るとか、こんなことも生物多様性に繋がっているということを、皆が認識できるようになっていくといいかと思いました。

事務局（内田）

県民・県庁内部でも十分に知られていないところはありますが、実際、生物多様性は幅広い分野に関わっていることなので、そういうことが見えてくるような発信をしていきたいと思います。また、事例集についてですが、高知県が運営委託している環境学習支援センター「えこらぼ」はいろんな団体さんと繋がりががあります。「えこらぼ」などを通じて県民の皆さんと共有できれば、取組のイメージにつながると思います。ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

石川部会長

最初に戦略を作った時に、事例の冊子を作りました。それを参考にしてバージョンアップされたらいいと思います。

佐藤委員、先ほどの部分含めてご意見あればよろしくお願い致します。

佐藤副部会長

こうち戦略でいうと 72 ページ、目標設定 PLAN3 の、「県内の保護地域及び OECM の面積割合」

が現在 9.9%、1割くらいしかないけれども、2030 年度には 30%。これは政府の 30by30 という目標に沿っているものと考えています。これは国家の目標に合わせるのはもちろんなのですが、なかなか大変で、かなり努力しないと達成は難しいかと思えます。関連して、補足説明資料 2-2 の 5 枚目を出していただけますか。比較的分かりやすくまとめてくださっているのですが、PLAN3 の守るというところで、県土における保護地域の割合、現状 9.9%、令和 10 年には 25%以上、と設定されています。単純に 2030 年に 30%にするためには毎年 3%ぐらいずつ増加していかないといけなくて、令和 10 年度に 25%以上というのは妥当な目標だと思えますが、これを達成するにはかなりの努力が必要だと思えます。達成に向けて各種方策を考えていかないといけないということです。そのすぐ下にある自然共生サイトの登録件数の目標値を具現化するというのも、モニタリング項目としては妥当だと思えますが、目標達成するために努力が必要で、関連部署との連携も必要です。何よりも県民の皆様に理解してもらうために、そういった活動も重要だと認識していますので、私たち自然環境部会も含めてですが、県民皆で頑張っていくと目標達成できないので、一生懸命努力していかないといけないと思えます。

事務局（内田）

今回改定の大きなポイントと思えますし、行政だけではなく県民の方々の協力をいただかないと達成できない目標ですので、「えこらぼ」や、生物多様性こうち戦略推進リーダーのお力も借りながら取組を進めて参りたいと思えます。県庁内部も所管している部署から取り組み始めて、民間の方や自治体に広めていきたいと思えます。

石川部会長

佐藤委員に質問なのですが、森林総研の中で自然共生サイトや OECM に関して何か議論があって、こんなところを指定したらいいのではないかとというようなご意見はありますか。

佐藤副部会長

私の専門分野である森林に関してコメントさせていただきますと、例えば高知県内で歳を取った天然林などは非常に少なく、既にそのうちの大半が保護区や保護林に指定されています。それをどんどん増やすというのは、もうやりようがないと考えています。それよりもやるとしたら、今手入れが不十分な森林、里山里地の二次林、あるいは、木材生産もしているような人工林を、いわば環境に対して比較的負荷が少ない形で木材生産をする、林野整備をするというような形でやっていけば、OECM に当たるかもしれません。OECM というのは厳密な保護区でないところでも、生物多様性に貢献するようなどを保護区と同等にみなそうという、乱暴に言ってしまうとそういう取組なのですが、そういうものとして里山の林であったり、環境に配慮したようなやり方でも、部材として出している人工林であっても、こういう目標の達成に向けて貢献できるのではないかとということが議論されておりまして、そういったものを今後検討していかないといけないだろうと考えております。

石川部会長

どうもありがとうございます。戦略には組み込む必要は無いかと思えますが今後の方針として良い参考になったと思えます。

ほかにございますか。

時久委員

83 ページ取組事例のところですか。学校教育の③「学校内におけるビオトープの設置及び利活用など、環境学習活動を推進する」についてです。ビオトープを作ったところと関係したことがあるのですが、上手くいくのは学校の中や、地域であれば地域の公園とかだと思います。すぐ行ける場所にあ

ると一番成功するんです。私が一番身近で知っているのは、香美地域の香長小学校が、運動場の隅っこに田んぼに流れている水路を引っ張ってきて、学校の中に作りました。年が経つと、生態系が非常に面白く出来上がっていきました。今でも3年生の総合学習であったり、自然のことを取り入れながら学習しています。それはすごく上手くいきました。一方で、ある学校では学校内の土地でできなかったため、道路を隔ててすぐの場所に田んぼを提供してくれる人がいたので作りました。ところが、道を隔てた場所というのは、先生が連れて行かないと危ないということがあり、そうすると最初のうちはやっていたけど、そのうち雑草地になりました。上手くいっている例が何かあれば教えていただきたいと思いました。

石川部会長

成功事例はたくさんありますよね。HPにも出ていますよね。これもQRコードで読み取れるように、工夫が必要ですね。

時久委員

とても良い事例なのですが、作る時にお金があるのでどうしたらいいのかなと思いました。私も自分の学校で作ったことがあります。お金も用意して出来たのですが、川を流そうと計画をしたら、配管がたくさん通っていて全然掘れず、仕方が無いので中庭に作りました。ビオトープは始めていきたいですが、増えるかなと思ったり、どうかなと思っています。

石川部会長

どうもありがとうございます。事務局で検討してみてもらえますか。

事務局（宇久）

はい。

石川部会長

すごく細かいところで申し訳ないのですが、53ページの上から7行目と欄外のところ、ジンデ池研究所ではなくジンデ池生物研究所ですね。ほかのところは生物研究所と書いてあるのですが、ここだけ抜けているので。それから言葉で気になったのが、18ページの30by30目標の4行目です。コミュニケ（共同声明）とありますが、コミュニケは公式声明が正確かと思います。テレビなんかでは共同のコミュニケといいます。共同の公式声明。だからコミュニケは取っていいと思います。

岩瀬専門委員

今回の案について、もし何かあるとすればいつまでにそちらに投げればいいのでしょうか。それからパブリックコメントの予定を教えてください。

事務局（内田）

パブリックコメントの時期的なものは部内でも協議をしております、3月に入ってからになりそうです。それまでにいただいたご意見について修正を行い、パブリックコメントを実施し、最終的なものを策定します。パブリックコメントでもご意見をいただければ修正は致します。委員の皆さまにはパブリックコメント前にはいただけるとありがたいです。そのタイミング等は改めてご連絡させていただきたいと思っております。

岩瀬専門委員

パブリックコメントにあんまり細かいことを書くのもどうかと思ひまして。

森田専門委員

64 ページの目標達成状況の表の後に、注釈があります。注3の網掛けの説明なのですが、濃い網掛けは達成していないもので、薄い網掛けは、達成はしているが達成までもう少しとあるのは…？

事務局（内田）

これは間違いです。目標達成にわずかに届いてないというところに関して薄い網掛けをしています。

森田専門委員

あと少しだったという意味ですかね。

石川部会長

ありがとうございます。

細川委員

6 ページの写真ですが、「生態系の多様性を表す様々なタイプの自然環境」など、写真が3枚3枚2枚と出ています。それは分かるのですが、具体的な説明がないと、分かりにくいです。「同じ種でも異なる遺伝子によって多様な個性がある」とただそう言われても、しばらく考えないといけないので、これをもう少し工夫していただけたらと思いました。これ何だろうと思うんですよ。

事務局（内田）

森の生態系、川の生態系、海の生態系というのがあるといいということでしょうか。具体的な場所とかを入れた方がいいということでしょうか。

細川委員

海もどこの海なのかというのも分かるといいですが、場所というより見て納得できるほうがいいと思います。

事務局（内田）

ここの書き方は少し工夫したいと思います。

細川委員

特に一番下の写真が見て分からなかったです。

事務局（内田）

同じ種でもそれぞれ遺伝子が違って、模様が違うというようなことを表したかったのですが、そういうことが分かるような一文を添えたほうがいいですかね。

細川委員

そうですね。種の名前を入れて欲しいです。これとこれ同じ種なのかな、いや違うでしょと思います。この色や模様が違うということだとは思いますが、少し分からなくて戸惑ってしまいました。

事務局（内田）

分かりました。そこは改めます。

石川部会長

特に一番下はあったほうがいいですね。同じ種と書いてあるから同じ種なんだと思いますが、ほかにいかがでしょうか。

時久委員

資料3の「はじめに」についてです。前回の中の3段落目のところに、この戦略の4章ではこんなこと、5章ではこんなこと、ああそうなんだと思いながら捲ったりしていました。今回は最後の段落で、第1部は計画編で第2部は現況編となっているという構成は読んでいてそうなんだと思うし、見たらそうなっています。前回の文章には、「生物多様性こうち戦略推進リーダーが使用できるテキストとしての機能も付加させよう」と書いているじゃないですか。これ学校でも研修会でも、どこでも中身はこれ読んでくださいよと言いたいですよ。HP開いたら出てくると思うので、分からないことは現況編を読んだら分かりますし、これを読んで人に伝えるということが出来ます。知らなかったことが分かります。そこだけじゃなくてはじめのほうもそうなので。授業作るときに、いろんなところから調べて何とかしようとしている人もいます。ここを切り抜いて見てもらったら分かりますというような、皆が学習したり啓発に使ったり、テキストというようなところも含めて、ぜひ使ってくださいという意味で、おしまいの方にこれも使って欲しいという願いがあったらいいと思います。

石川部会長

その部分を折り込みましょう。ありがとうございました。

時久委員

例えば、県で県庁の職員さんの研修があったりするじゃないですか。教育機関でいえば、教育センターの指導主事が、県外の講師などをよく呼んで研修などをしています。そういうところで、これを使ってもらえれば、そういう人たちが、これが大事だと気づいてくれると思うので、それを研修として組み立てたらいいと思います。先生方を集めての会はしょっちゅう開いていますが、全体を回す立場の人がどれだけ大事だと思っているかが重要だと思います。

石川部会長

ほかにいかがでしょうか。

岩瀬専門委員

今の話が心に響きました。今までリーダー研修たくさんやってきましたけど、これを教科書に使ってなかったですね。これはまずかったなど。その時必要な部分をコピーして、教科書にして使うというような、そういう使い方したらよかったなど、反省しました。

石川部会長

ほかにいかがでしょうか。16~21ページが新しく入ったところで、SDGsは前の改定の時に、これも必要です、教科書として入れないといけないですよということで入れました。ネイチャーポジティブ、国家戦略についてもう少し書いてよというご意見があるのですが、大丈夫ですか。これでいたい分かりますか。ここにもQRコード入れるという手もありますが、これ以上書くのはちょっとボリュームが増えすぎて難しいでしょうけど。

佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤副部会長

ありがとうございます。それでいいと思います。特に16ページ以降のところは非常によく分かり

やすく書いていただいていると思います。なるべく多くの方々に読んでいただきたいと思います。

石川部会長

だいたいよろしいでしょうか。

森田専門委員

細かいところですが、20ページの1-3-2のタイトル「生物多様性国家戦略」の字の濃さが違います。

事務局（内田）

修正します。

石川部会長

細かいところや気づいたところをお知らせいただくのはいつまででしょうか。

事務局（内田）

少なくとも今月中にはいただきたいと思います。

石川部会長

今月中はパブリックコメント前になりますか。

事務局（内田）

はい。

石川部会長

今月中にはお気づきの点を内田さんまでお願い致します。

石川部会長

ここで審議は終了させていただきますが、よろしいですか。

石川部会長

それでは最後に議決を行わないといけません。生物多様性こうち戦略2024改定版の議決を行いたいと思います。この改定案にいただいた意見を反映させたものを原案として作ります。それに対して賛成の方、挙手をお願い致します。

（全員挙手）

石川部会長

ありがとうございました。修正を含めてパブリックコメントを行っていただいて、その対応につきましては部会長の一任にさせていただきたいと思います。後日、委員の皆様の結果をご報告させていただきます。当審議会に諮問された生物多様性基本法第13条第1項に基づき策定した、高知県の生物多様性地域戦略の改定については、原案のとおりとすることが適当であるとの結論を得ましたので答申してよろしいでしょうか。ご了承していただける場合は、拍手をお願い致します。

（拍手）

石川部会長

本日の議事につきましては、高知県環境審議会運営規定第6条第3項に基づき、部会の決議は、会長の同意を得て審議会の決議となります。どうもありがとうございました。

以上をもちまして、本日の議事を終了致しました。それでは事務局お願い致します。

事務局（宇久）

皆さん、長時間本当にありがとうございました。今年1年、「生物多様性こうち戦略」の改定にご協力いただきましてありがとうございます。来年度は本日審議いただきました「生物多様性こうち戦略 2024 改定版」の印刷を行ってお配りするとともに、さらなる生物多様性の保全に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

それでは、これもちまして令和5年度第2回高知県環境審議会自然環境部会を閉会します。お疲れ様でした。ありがとうございました。